

同志社ラグビーを応援します！

「ラグビーが強い同志社」に憧れて。

関西オートメイション株式会社

代表取締役 宮坂 典央

取材・文／上野あゆみ 写真／Dサポートネットワーク

「ラグビーが強い同志社」に憧れて、僕は同志社大学に入学しました。高校生の頃、友人の父親が社会人ラグビーの選手をしていて、彼と一緒によく試合を見に行っていました。当時はラグビーがものすごく盛んでしたから、テレビをつければラグビーをやっているというくらい。社会人ラグビーを見ているうちにだんだん大学ラグビーも見erようになって、そこで強い同志社に出会いました。その頃からずっと同志社ラグビーを応援しています。

同志社ラグビーの魅力は、形にとらわれず、いろいろと工夫をして自分達にしかできないラグビーをやっているというところ。一緒にプレーをしていない僕にもそれは伝わってきます。指導者にやらされているのではなく、選手たちが自主的にやる姿勢が徹底されている。キャプテンを中心に、本当によくまとまっていると思います。これは他校に絶対負けない同志社ラグビーの強みです。

にもかかわらず、なかなか成績が振るわない近年。選手はもちろん頑張らなければなりません、彼らだけでなく、指導する方やOBが全員で協力し、学校をあげて盛りたてていかないと、今の大学スポーツは勝てないと実感しています。周りの応援する側がもう少し力を出して、設備や環境を整えてあげることで、また強い同志社になれると思います。成績だけ見ると少し残念なところはありますが、見ている限り、選手がすごく一生懸命やっているのがよくわかります。

ただ、他校に比べるとシステムの劣っているところがある。だから、僕らが手を貸さなければと思うんです。体格的にも技術的にもいい選手がたくさん揃っているようなので、今年はやってくれるんじゃないかと期待しています。

今年のスローガンは「TRUST」ということで、監督をはじめいろいろなところでこの言葉が出てきます。自分を信じてやりなさい、仲間を信じてやりなさいということだと思います。これはスポーツに限らず、何かを成し遂げるには本当に大事なことです。自分を信じてやるためには、どれだけ自分達がやってきたかということではしか信じる尺度を持ってません。今年は春先から本当に一生懸命やっているし、監督をはじめかなり濃い内容でされているようなので、そうして積み上げてきた力を出すいい機会がやっとやってきたのではないのでしょうか。ぜひとも自分達がやってきたことを信じて思いっきりやってほしいものです。

ただ、近年は勝ちきれないという試合が多くあります。すごくいい勝負をしていても、最後で逆転されてしまうなど詰めが甘かったり。何とか最後の5分、10分、気を引き締めていかないと。そこで相手に1トライ取られるのではなく、自分達の方がとどめの1トライを取りにいけるようなチームになってほしい。それには初戦の内容と結果がとても大事なので、そこでいい勝利を収めて、いいシーズンを送ってほしいと思います。

今年の同志社は、宮本監督をはじめ、指導者の方々に本当に恵まれています。小さな頃からラグビーをやっている、なかなか会うこともできないようなすごい方々です。日本を代表するような素晴らしい指導者の方々が周りにたくさんおられる。それは同志社にいるからこそその環境。その方々のご縁を大切に、切磋琢磨し、自分を信じて、仲間を信じてやってほしい。そしてもう一度、日本一になってもらいたい。だから僕はこれからも同志社ラグビーを応援していきたいと思っています。

